

素 顔 拝 見

大学院医歯学総合研究科・口腔生命科学専攻・
顎顔面再建学講座・顎顔面放射線学分野

西 山 秀 昌

はじめまして。平成15年4月から本学・顎顔面放射線学分野の助教授として大阪から来ました西山秀昌（ひでよし）と申します。生まれも育ちも大阪と、生粋の「なにわっこ」（なにわ：浪速・難波・浪花＝大阪）の様に思われがちですが、両親は広島出身であり、妻は兵庫県北部の雪国育ちで、言語環境は地方色豊かなため、なぜだか標準語主体（？）となっています。とはいうものの、生まれ育った地が、ラグビーのメッカ「花園ラグビー場」の近くで、「旧・中河内」と呼ばれたところ。南河内に比べておとなしい方ですが、「河内のオッサンの歌」や「じゃりん子チエ」で一躍有名になった「河内弁」の土地です。幼稚園時分に「絵に書いたような河内のオッサン」が近所に住んでいて、片言の河内弁を覚えては使い回していた記憶がかすかに残っています。今でもポロツと出てくるかも知れません。まあ、そんなこんなで大阪大学歯学部に入り、当時歯科放射線学教室・助教授だった藤下先生（現・朝日大学歯学部長）に「西山君、君が来てくれたらうれしいんだけど」と、廊下にてすれ違いざまに声をかけられたのをきっかけに入局してしまいました。その後、紆余曲折を経て、林教授に「西山君、新潟来ない？」と、これまた誘われて新潟の地にやってきたわけです。

と、かなり省略してしまいましたが、私の学生時代から研究時代は、いわゆるマイコンの興隆の時代そのもので、家が電気屋だったせいもあり、御多分に漏れずのめり込んでおりました。入学当初から医学部のマイコンクラブに入り、拡張したPC-8001上でN-BASIC、Z80-mnemonic、PASCAL、C、LISP、Prologなどをさわっていました。そのためか、学位論文は並列処理



を用いた任意断面の断層画像生成法関連になりました。最近Javaにはまっていますが、プログラミングする時間が少なくなっていくのが寂しいばかりです。その当時からずっとコンピュータというものを見てきていますが、最近の進歩というか、コンピュータの有り様の変化（多様化・社会化・埋没化していく課程）には学ぶべきところが多くあり、私の人生観（というより、周囲の人々の人生）はすっかり変わってしまったような気がします。そうそう、クラブの諸先輩方の中では、松村先生（現・阪大医病・情報処理・助教授）を始め数名の方が医療情報畑で今もがんばっておられます。

さて、大阪といえば「たこ焼き・お好み焼き」ですが、家庭環境というのは恐ろしいもので、広島出身の両親を持ったため、大阪のお好み焼きというものを知ったのは、高校生ぐらいになってからでした。家ではもっぱら「広島焼き」を食べていたのです。大阪のお好み焼きは「ぐるぐるかきまぜて」焼きます。広島焼きは「生地の上に具をのせて、さらに生地をかけて」焼きます。家で作る「たこ焼き」は硬くてまずかったのを覚えています。こちらに来て食べ物の話になると、なぜだか「大阪ではたこ焼き器を一家に一つは持っているそうですね」と言われるので、ついつい「たこ焼き器」なるものを先日買ってきて、たこ焼きを作ってしまった。何のことはない、たこ焼き器においしい作り方が書いてあり、ほぼその通り

にしたところ、「おー。これこれ！」というたこ焼きができたので感激してしまいました。大阪では人通りのある駅前には必ずと言っていいほど「たこ焼き屋」の屋台が夜遅くまで営業しており、いつでも食べることができたので、作って食べるほどでもなかったんだということに、やっと気づいたと言うところです。

「たこ焼き屋の屋台」のない新潟の地ですが、大阪と決定的に異なると感じることは、「地下鉄がない」、「7月でも夜が涼しい」、「暴走族が少ない」、「女子中・高生のスカートが短い」、「お酒・魚介類・ご飯がおいしい」といったところでしょうか？。まだ冬を経験していないので、坂口安吾の言うところの「私のふるさとの家は空と、海と、砂と、松林であった。そして吹く風であり、風の音であった」という境地は、真に理解できずにいます。結局のところ、経験というものが、いかに思考・行動過程に制限を加えているかを身をもって体験しているところなのかも知れません。何でもないような経験の積み重ねをしっかりと見据えていけば、もしかしたらテロの日（2001年9月11日）に生まれた我が子と経験を共感していけるのかもしれない、最近そんなことを考えています。昨日見つけた坂口安吾の石碑に刻まれた「ふるさとは 語ることなし」の行間に、なぜだか私の父と私と我が子との間を見る思いがしました。語ってしまえる冬ではなく、経験する冬を越えたときに、初めて新潟の住人になれるのかも知れません。なんだか、当たり前のことばかり書いてしまったような気がします。なにはともあれ、今後とも、よろしくお願い申し上げます。

＊

大学院医歯学総合研究科・口腔生命科学専攻・
顎顔面再建学講座・摂食機能再建学分野
(旧 補綴)

田 中 みか子

驚くなかれ15年5月1日付けで講師をさせていただいております。未熟者ですが、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

「素顔拝見」ということですので、「す」の部分をご紹介したいと思います。私は、新潟市生まれの新潟市育ち、生粋の新潟人です。ただ、小学2年生から4年生にかけては父の仕事の関係で栃木県小山市で過ごし、「関東では冬でも運動靴で遊べるんだ。」とびっくりしたことを覚えております。中高校時代はテニス部で真っ黒に日焼けしておりましたが、大学では一転し、江戸千家茶道部でお茶とおちゃげ（お酒）をたしなみました。今でも茶道部のお茶会に顔を出して、楽しませていただいております。

平成2年に補綴に研修医として入局。平成6年には河野教授のお導きにより、大学院に進みました。これは、私にとって大きな転機であり、今の私があるのは大学院で研究テーマに出会えたからだと思います。そして「あなたは研究に向いているのではないか」と後押ししてくれた主人の一言にも感謝しております。

大学院では、補綴治療に携わりながら純粋に湧いてきた疑問「骨粗鬆症と顎骨の関係」について研究し、第一口腔解剖の小澤先生、江尻先生のご指導の下で学位論文をまとめることができました。現在もこの研究を続けており、顎骨は歯があ



初公開？ 家族です。

るゆえになんと複雑なことかとその神秘性にとりつかれております。最近の知見としては、パノラマX線写真上の下顎下縁皮質骨が全身的骨粗鬆症の病態と呼応していることを見出すことができました。われわれ歯科医がもっている情報を骨粗鬆症の診断に役立てるべく具体的な方法を模索中です。さらに現在、骨粗鬆症と歯槽骨の骨梁構造変化について検索しており、インプラントや歯周再生治療が増える中、罹患率が増えている骨粗鬆症と歯槽骨の関連について解明していきたい所存です。

最後に、私は22歳で左耳下腺の多形性腺腫摘出

術を受けました。(試験によく出るあの腫瘍が自分にできるなんて！驚きでした)。31歳で長女を出産。33歳の時には多形性腺腫が再発(大ショックでした)。この時は腫瘍とともに左耳下腺を3分の2摘出し、少し顔面神経に後遺症が残っております。そして35歳で次女を産みました。これまで病気をしても出産をしても根性で仕事に復帰してきました。家族にシワ寄せがいくことを承知の上です。はっきり言ってこの選択が正しいのかどうかわかりません。ただ、もう少し頑張ってみたいな…それが現在の率直な心境です。今後ともよろしくご指導お願い申し上げます。

